

ロータリー米山記念奨学金学生の推薦にあたって

国際支援課

本奨学財団は、毎年大学担当者向けの説明会を開催しており、説明会にて選考にあたっての注意事項等案内がありましたので、以下にまとめております。応募にあたっては、学生だけでなく、指導教員にも趣旨をご理解いただきますようお願いいたします。

<応募書類>

- ① 月1回以上の定例会への出席が奨学生の義務だということを、学生・指導教員共に認識しておいてください（やむを得ない欠席の場合は、文書による理由書の提出を求めています）。定例会で奨学金を手渡しします。交流行事に積極的に参加できる学生を採用するとのことです。なお、行事等について、必須ではありませんが指導教員に対しても参加依頼があります。
- ② 成績や経済状況が優先ではありません。志望動機や推薦状に経済的に困窮していると書くケースが見られますが、経済状況は考慮されません。応募者の長所や短所といった、人柄が分かるような事項を記載してください。
- ③ 研究計画書には、自分の学んでいること、研究していることをどう社会に役立てたいかを書いてください。
- ④ 推薦状は必ず指導教員が作成してください。学部生などで指導教員が決まっていない場合はそれに準ずる方、指導的立場の方が作成してください。以前、面接において、推薦状を書ってくれた先生との関係を聞いたところ「あまりよくわからない」との回答があり困惑したケースがあるとのことでした。

<面接>

- ① 今年の面接は、12月12日（木）に開催される予定です。
- ② 人柄（誠実さ、身だしなみ、態度）が大きく考慮されます。面接は受付から始まっています。昨年は、受付の態度が悪く不採用となったケースもあったそうです。
- ③ 過去に、面接時における自己アピールとして、自分の作品や研究成果など持ってくる学生がいたが、専門性が感じられて大変面白かった、との意見がありました。誰にでもわかりやすい説明をすることが高評価につながるようです。
- ④ ロータリー米山記念奨学財団がどのような財団なのか面接で聞かれることもあります。財団についてある程度の知識を備えて面接に臨んでください。ただし、ロータリーに関する知識を覚えるのではなく、ロータリーの事業の趣旨を理解することが重要です。
- ⑤ 日本語が苦手な学生は、日本語や日本文化に親しもうとしている意欲があるということをアピールするとよいかもしれません。（「現時点では日本語は不得意だが、一生懸命日本語を勉強しているところである」等）面接でうまく日本語を使えなかった人も、オリ

エンターションまでには日本語で自己紹介くらいはできるように準備しておいてくださいとのことです。

<採用後の注意事項：指導教員>

指導教員や学校関係者に対し、採用後オリエンテーションへの参加が依頼されます。どなたも参加できない場合は、内定を取り消すこともあるとのことでした。